

# 7 人権、DV(配偶者等からの暴力)について

## 18-1 暴力と思う行為

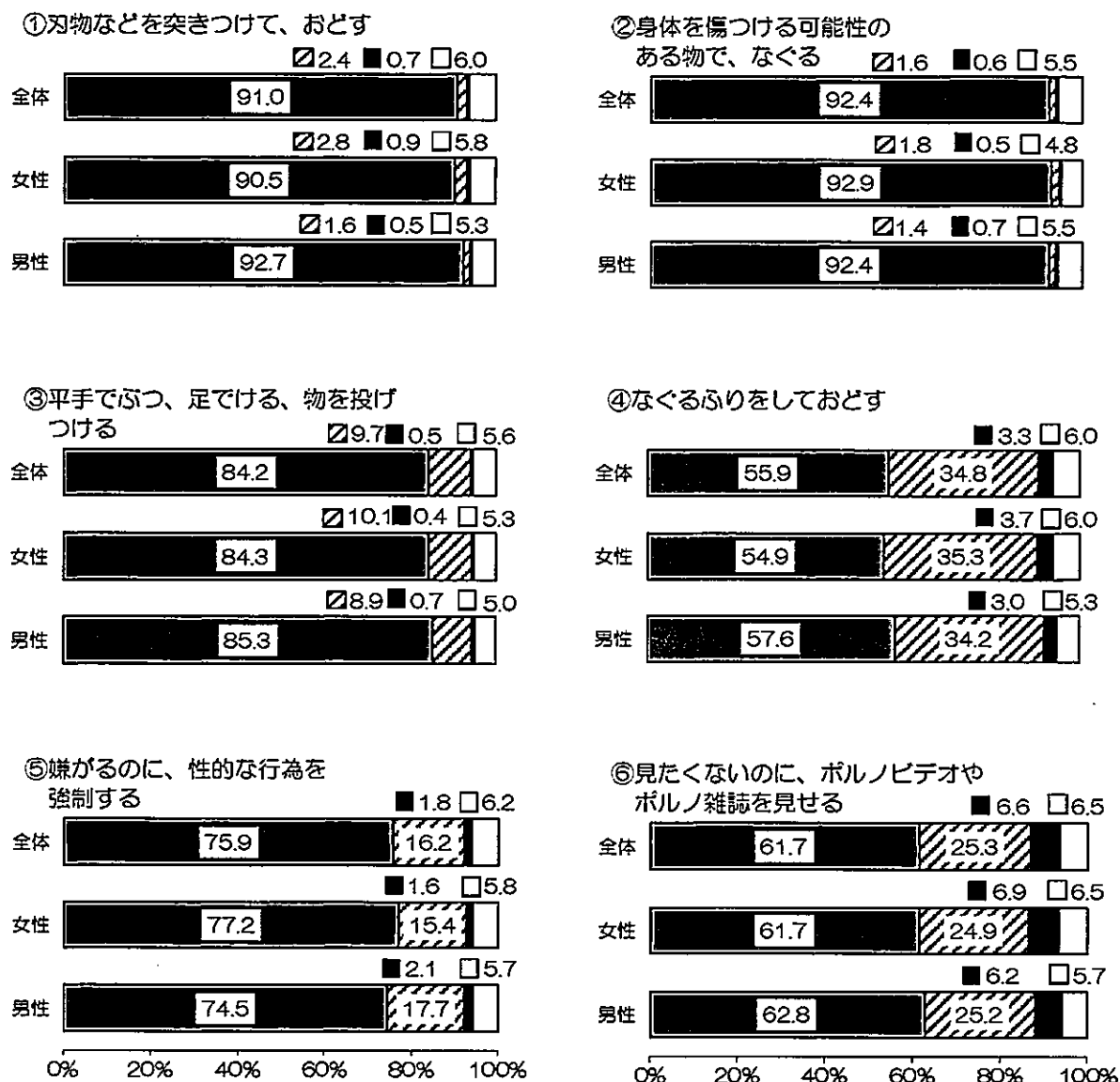
問18 次のようなことが夫婦(事実婚や別居中を含む)や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。(①~⑮の項目それぞれについて1つだけに○印)

### ポイント

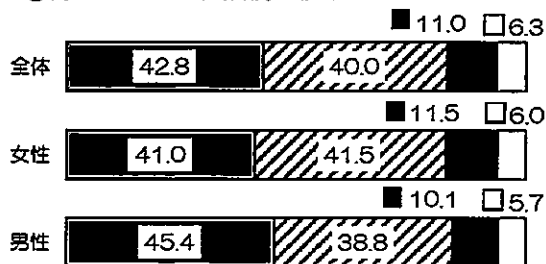
- 「①刃物などを突きつけて、おどす」、「②身体を傷つける可能性のある物でなぐる」では9割以上の人が「どんな場合でも暴力にあたる」と考えている。
- 「④なぐるふりをしておどす」、「⑦何を言っても、無視し続ける」、「⑧交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」、「⑨実家や友人との付き合いを制限する」、「⑪大声でどなる」では、3割以上の人が「暴力の場合とそうでない場合がある」と考えている。

図18-1-1 暴力と思う行為

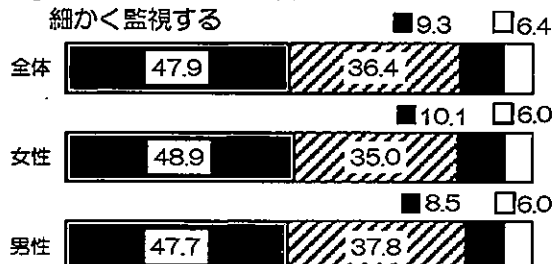
全体：1,021件  
女性：566件  
男性：436件



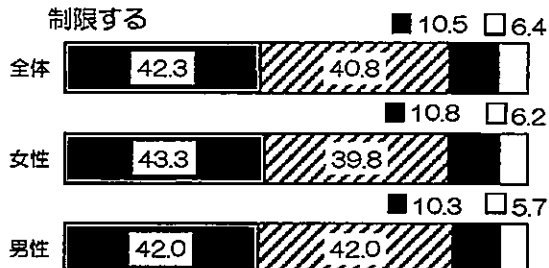
⑦何を言っても、無視し続ける



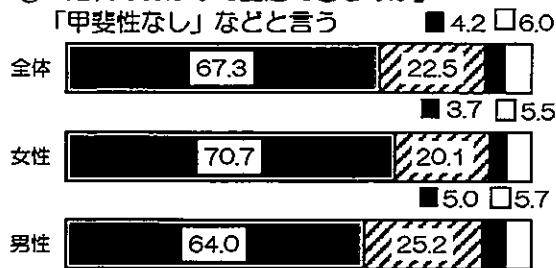
⑧交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する



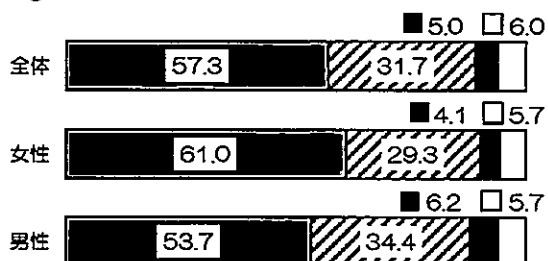
⑨実家や友人との付き合いを制限する



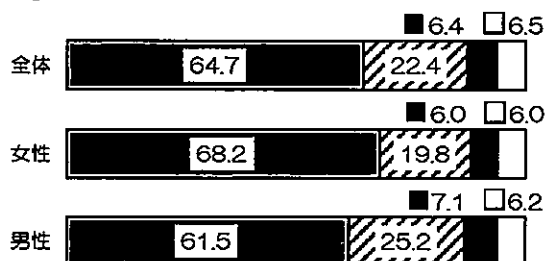
⑩「だれのおかげで生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う



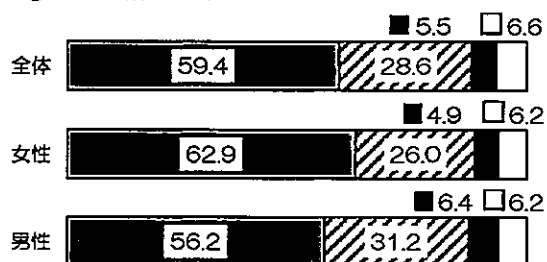
⑪大声でどなる



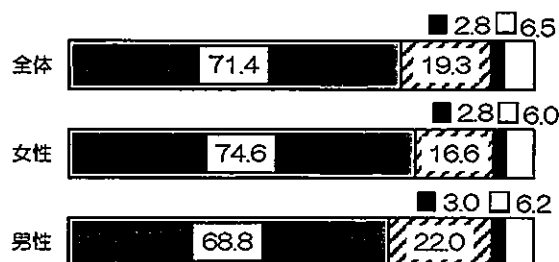
⑫生活費を渡さない



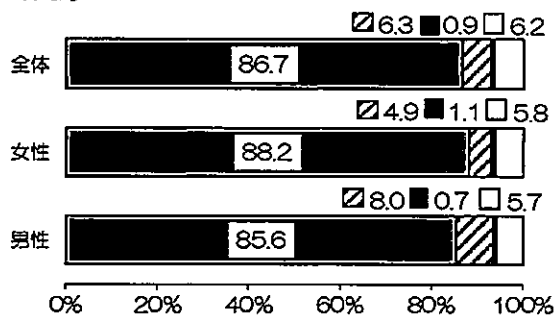
⑬避妊に協力しない



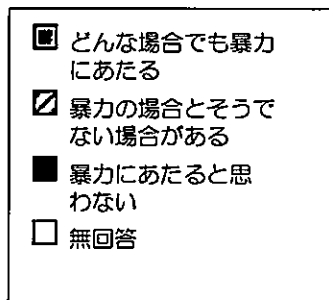
⑭中絶を強要する



⑮子どもに危言を加えると言っておどす



0% 20% 40% 60% 80% 100%



暴力と思う行為について、全体では、「どんな場合でも暴力にあたる」と回答した人の割合は、「②身体を傷つける可能性のある物でなぐる」で92.4%、「①刃物などを突きつけて、おどす」で91.0%と高く、次いで、「⑮子どもに危害を加えると言っておどす」が86.7%、「③平手でぶつ、足でける、物を投げつける」が84.2%となっている。「暴力にあたるとは思わない」と回答した人の割合は、「⑦何を言っても、無視し続ける」で11.0%と最も高く、次いで、「⑨実家や友人との付き合いを制限する」で10.5%となっている。また、「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合は、「⑨実家や友人との付き合いを制限する」で40.8%、「⑦何を言っても、無視し続ける」で40.0%、「⑧交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」で36.4%、「④なぐるふりをしておどす」で34.8%となっている。

性別にみると、「⑪大声でどなる」では7.3ポイント、「⑩「だれのおかげで生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う」、「⑫生活費を渡さない」、「⑬避妊に協力しない」がそれぞれ6.7ポイント女性が高くなっている。(図18-1-1)

19-1 配偶者や恋人からの暴力の経験

問19 あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。  
 (①～⑤の項目それぞれについて1つだけに○印)

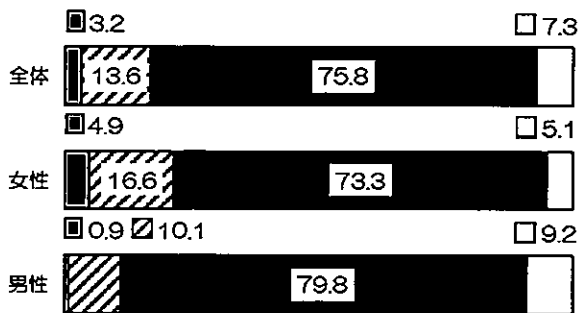
ポイント

○全ての項目において、女性の方が暴力を受けた割合は高い。  
 ○女性では、2割以上の方が「①身体的暴力」、「②精神的暴力」を受けている。

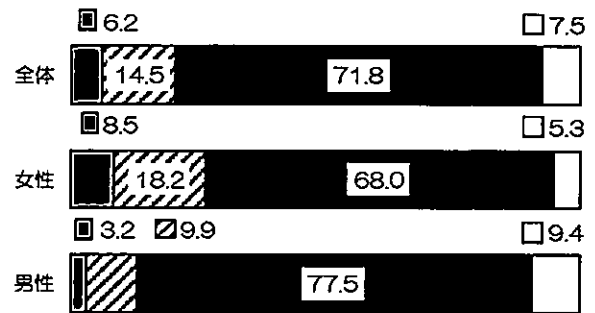
図19-1-1 配偶者や恋人からの暴力の経験

全体: 1,021件  
 女性: 566件  
 男性: 436件

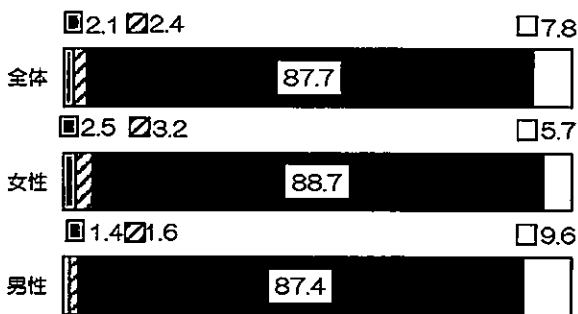
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた



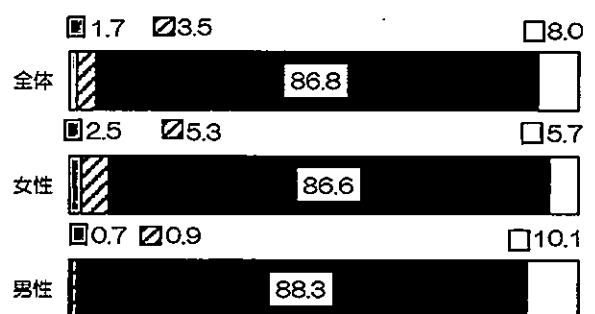
②人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた



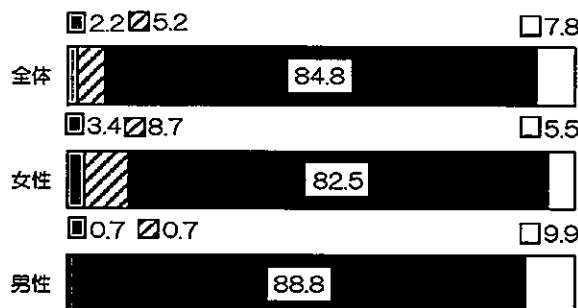
③友人や親兄弟に会わせない、外出させない、手紙を勝手に見るなどの社会的暴力を受けた



④生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えないなどの経済的暴力を受けた



⑤見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた



■ 何回もあった  
 ▨ 1、2回あった  
 ■ まったくない  
 □ 無回答

配偶者や恋人からの暴力の経験について、全体では、「①身体的暴力を受けた」ことが『あった』（「何回もあった」と「1、2回あった」を合わせたもの）という人は16.8%となっており、女性では21.5%、男性では11.0%と、女性の方が10.5ポイント高くなっている。「②精神的暴力を受けた」ことが『あった』という人は、全体では20.7%と最も高く、女性では26.7%、男性では13.1%と、女性の方が13.6ポイント高くなっている。「③社会的暴力を受けた」ことが『あった』という人は、女性で5.7%、男性で3.0%となっている。「④経済的暴力を受けた」ことが『あった』という人は、女性で7.8%、男性で1.6%となっている。「⑤性的暴力を受けた」ことが『あった』という人は、女性では12.1%、男性では1.4%となっている。（図19-1-1）

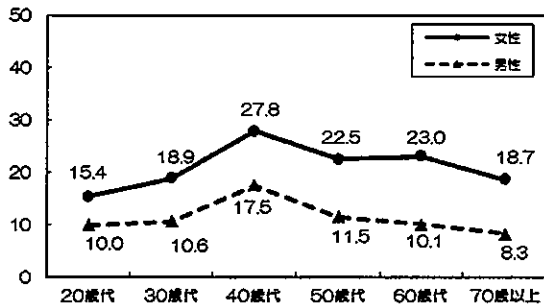
図19-1-2 性年齢別 配偶者や恋人からの暴力の経験

【暴力が『あった』という人の割合】

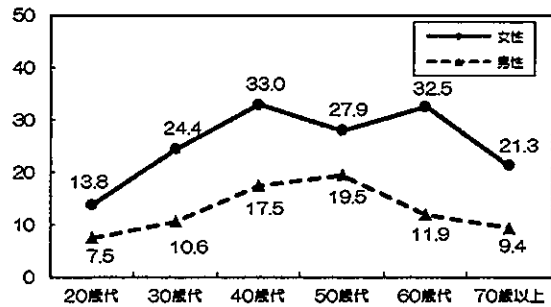
ポイント

- 「①身体的暴力」では、女性の40歳代、男性の40歳代で割合が最も高い。
- 「②精神的暴力」では、女性の40歳代、男性の50歳代で割合が最も高い。

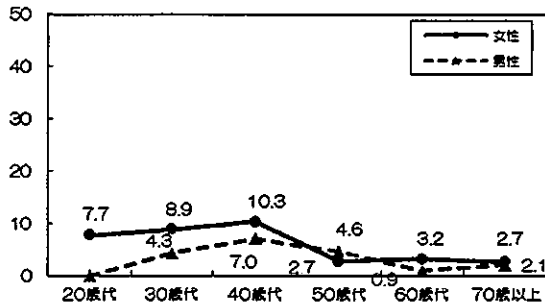
①なくったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた



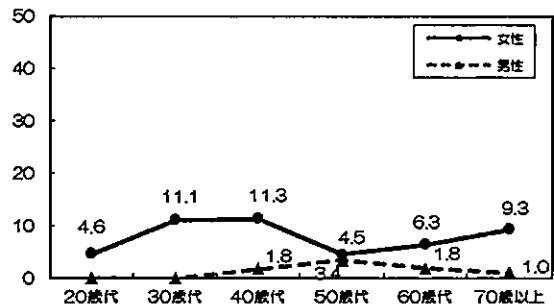
②人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた



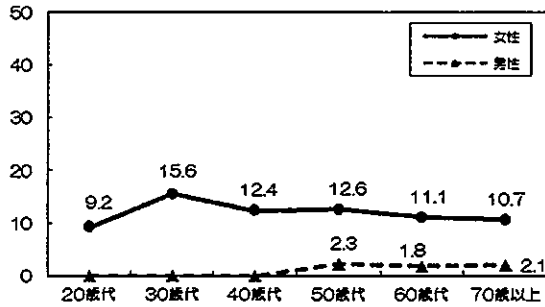
③友人や親兄弟に会わせない、外出させない、手紙を勝手に見るなどの社会的暴力を受けた



④生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教ええないなどの経済的暴力を受けた



⑤見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた

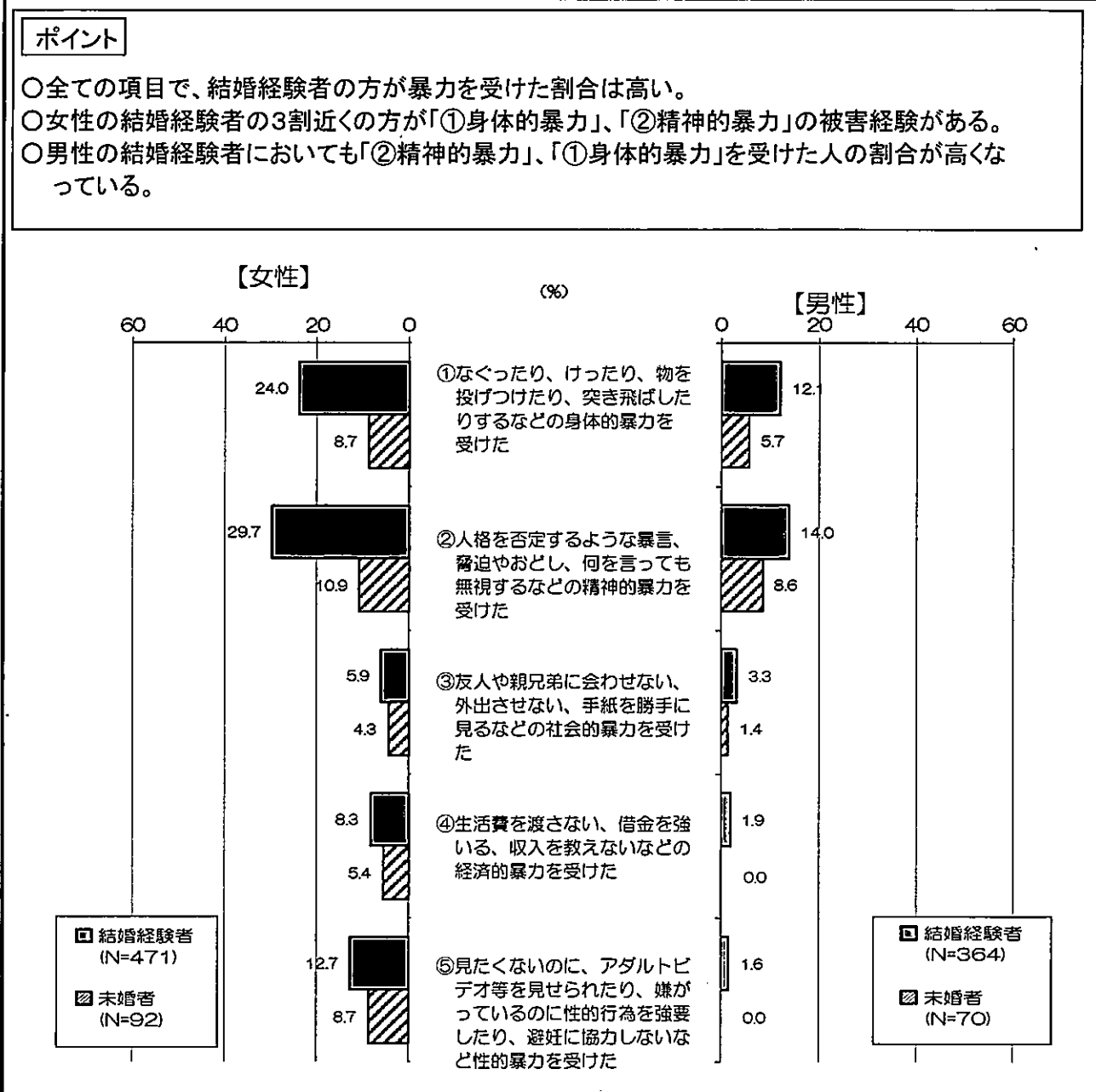


※「無回答」を除いた割合を記載している  
 ※『あった』は「何回もあった」と「1、2回あった」を合わせたもの

配偶者や恋人からの暴力の経験について、性年齢別にみると、「①身体的暴力を受けた」ことが『あった』という人は、女性では40歳代で最も高く、被害経験のある人が27.8%となっている。男性についても、40歳代で最も高く、被害経験のある人が17.5%となっている。

「②精神的暴力を受けた」ことが『あった』という人は、女性の40歳代(33.0%)、男性の50歳代(19.5%)で最も高くなっている。(図19-1-2)

図19-1-3 結婚の有無別 配偶者や恋人からの暴力の経験



配偶者や恋人からの暴力の経験について、結婚の有無別にみると、男女ともに全ての項目について、「暴力を受けた」ことが『あった』という人の割合は、未婚者よりも結婚経験者の方が高くなっている。差が大きいものについては、「①身体的暴力を受けた」では、女性で結婚経験者が24.0%、未婚者で8.7%と、結婚経験者の方が15.3ポイントも高くなっている。また、「②精神的暴力を受けた」では、女性の結婚経験者が29.7%、未婚者で10.9%と18.8ポイントの差がある。(図19-1-3)

## 20-1 実際の相談先

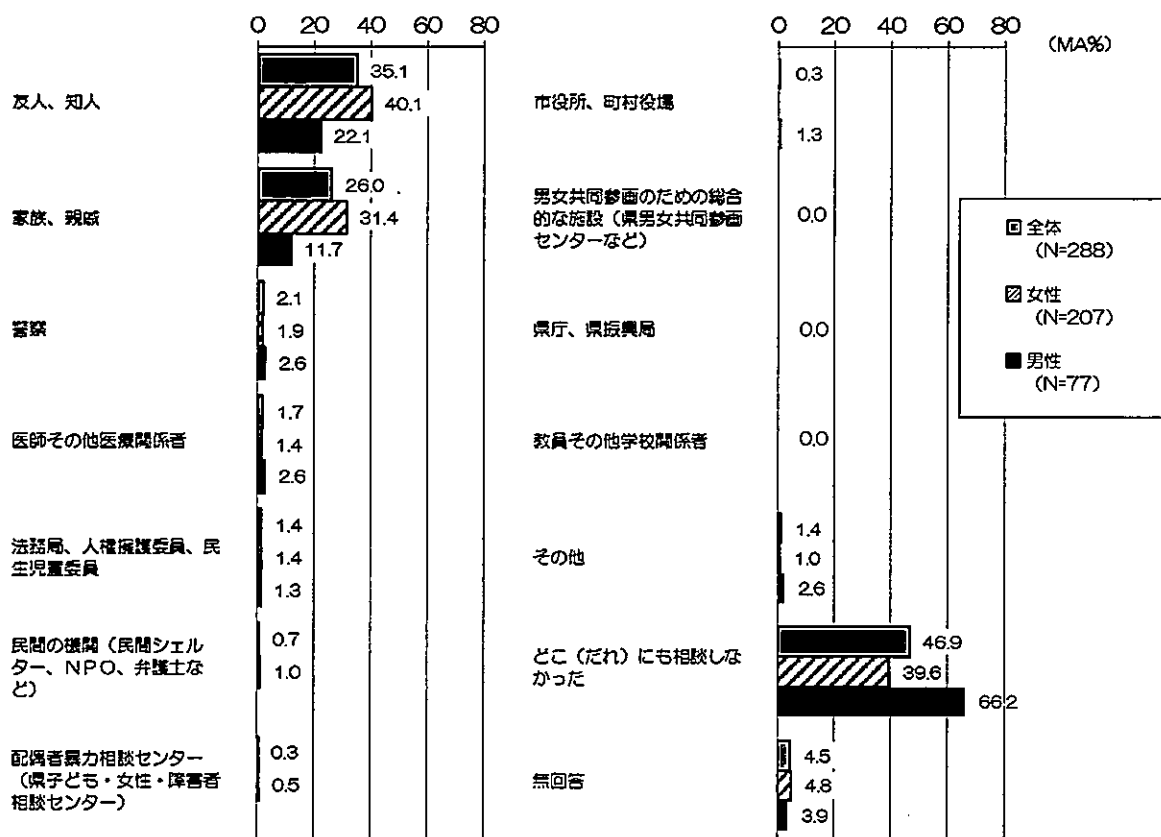
問20 あなたはこれまでに、問19であげたような配偶者や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○印)

### ポイント

○全体で「友人、知人」、「家族、親戚」に相談したという人が約3割となっているが、それ以外の項目の割合は低くなっている。

○「どこ(だれ)にも相談しなかった」という人は全体で4割以上となっている。

図20-1-1 実際の相談先



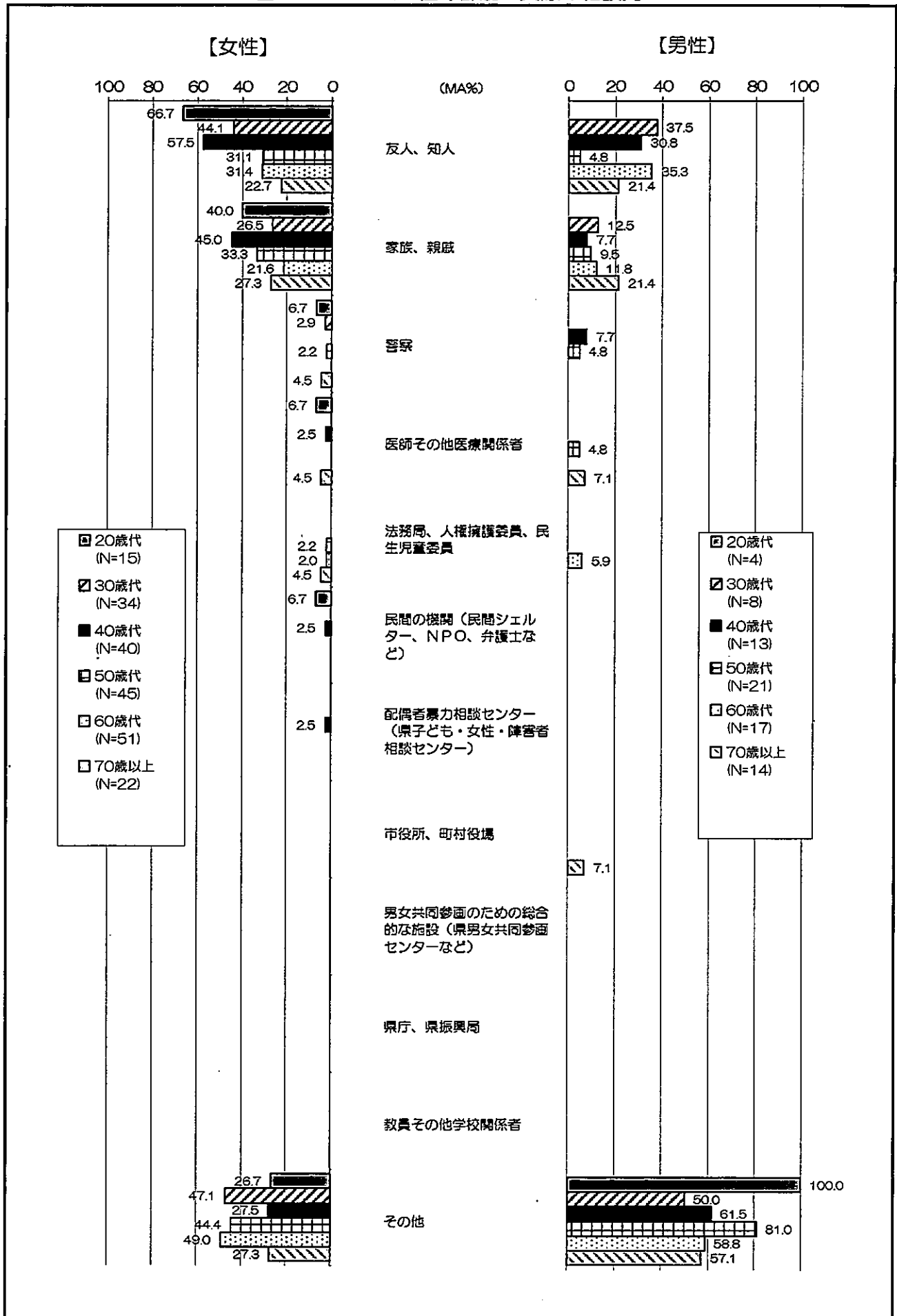
実際の相談先について、全体で見ると、「友人、知人」に相談した人が35.1%、「家族、親戚」に相談した人が26.0%とそれぞれ約3割となっているが、それ以外の項目はいずれも3%未満となっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(46.9%)という人は4割以上であり、男性では、66.2%と非常に割合が高くなっている。

性別にみると、「友人、知人」(女性40.1%、男性22.1%)、「家族、親戚」(女性31.4%、男性11.7%)では、いずれも女性が3割以上であるのに対して、男性は3割を下回っている。(図20-1-1)

※ なお、性年齢別の分析を実施したところ、「友人、知人」に相談したという人の割合は、女性の20~40歳代で割合が高く、4割以上であった。「家族、親戚」に相談したという人は、女性の20歳代と40歳代で4割以上であった。(図20-1-2)



図20-1-2 性年齢別 実際の相談先



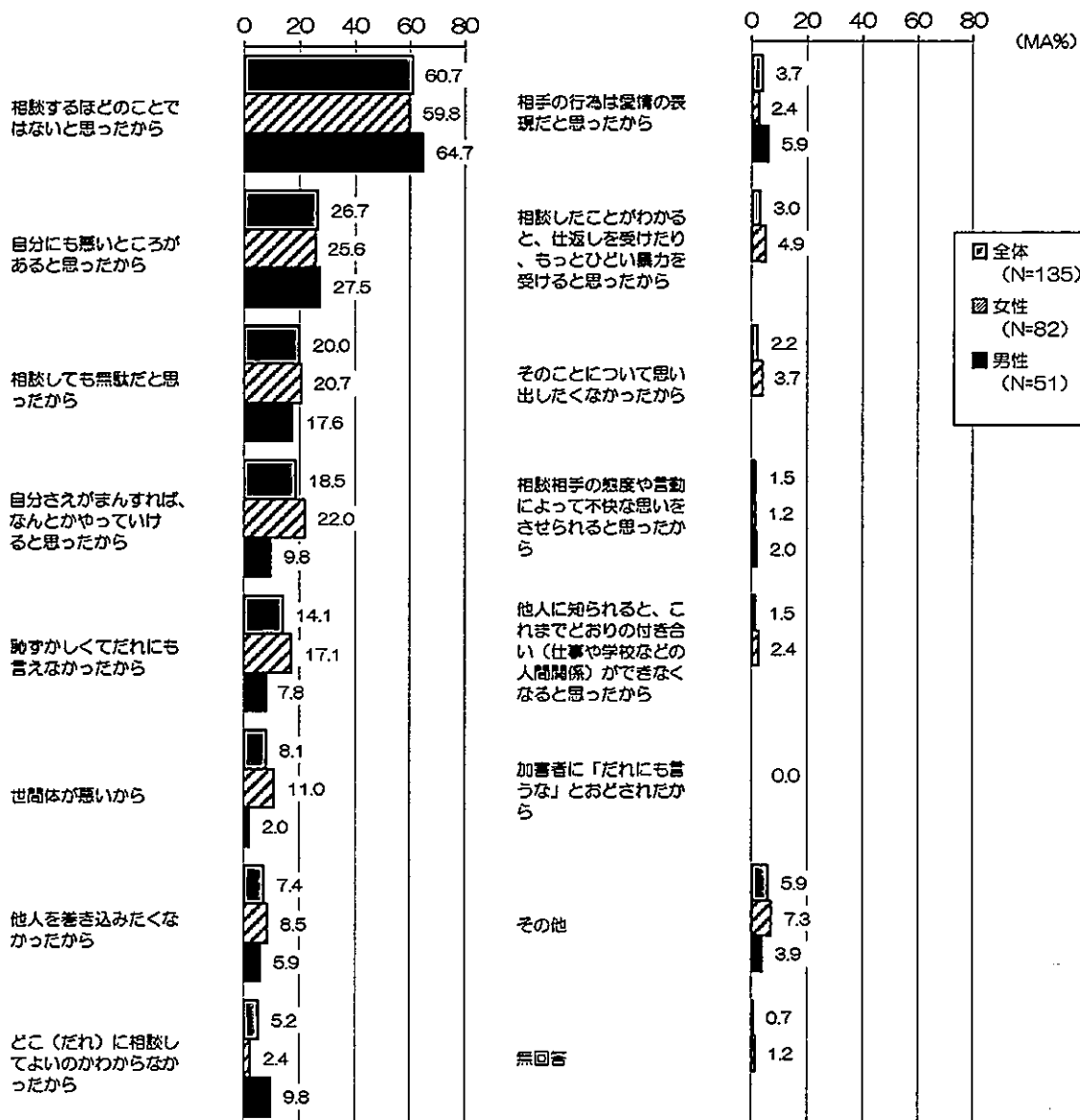
## 21-1 相談しなかった理由

問21 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○印)

### ポイント

- 男女ともに、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」となっている。
- 「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」では、男女の差が大きくなっている。

図21-1-1 相談しなかった理由



相談しなかった理由について、全体で見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」が60.7%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が26.7%となっている。

性別にみると、「相談するほどのことではないと思ったから」(女性59.8%、男性64.7%)は、男性では6割以上の方が答えており、女性を4.9ポイント上回っている。一方、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」(女性22.0%、男性9.8%)は、女性では2割以上の方が答えており、男性を12.2ポイント上回っている。(図21-1-1)

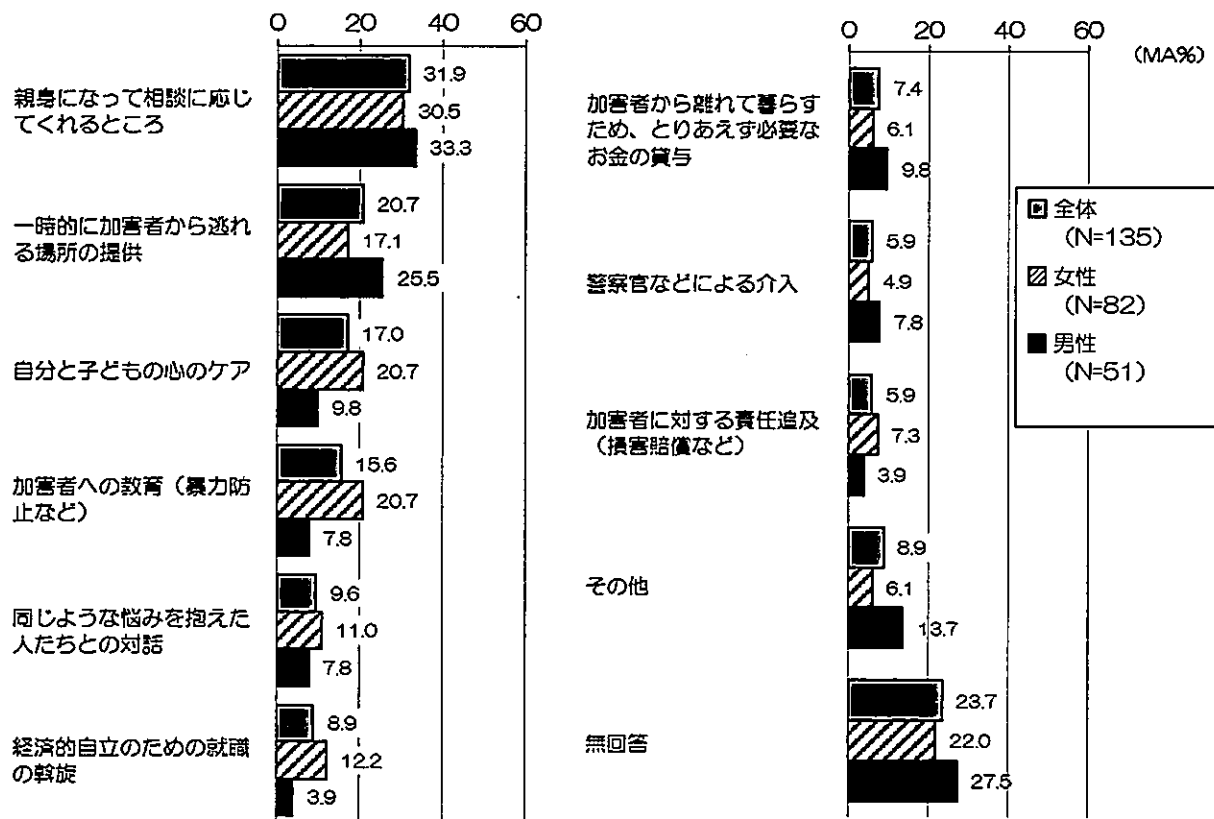
## 22-1 実際に求める支援

問22 あなたは、配偶者や恋人から暴力を受けたとき、どのような助けがほしいと思いましたか。(あてはまるものすべてに○印)

### ポイント

○「親身になって相談に応じてくれるところ」が約3割と最も高く、次いで、「一時的に加害者から逃げる場所の提供」で、約2割となっている。

図22-1-1 実際に求める支援



実際に求める支援について、全体で見ると、「親身になって相談に応じてくれるところ」(31.9%)が約3割と最も高くなっている。

性別にみると、「親身になって相談に応じてくれるところ」、「一時的に加害者から逃げる場所の提供」、「警察官などによる介入」では、男性の方が若干割合は高いが、「加害者への教育(暴力防止など)」では、女性が20.7%、男性が7.8%と女性の方が12.9ポイント高くなっている。次いで差の大きかったものは、「自分と子どもの心のケア」(女性20.7%、男性9.8%)で女性のほうが10.9ポイント高くなっている。(図22-1-1)

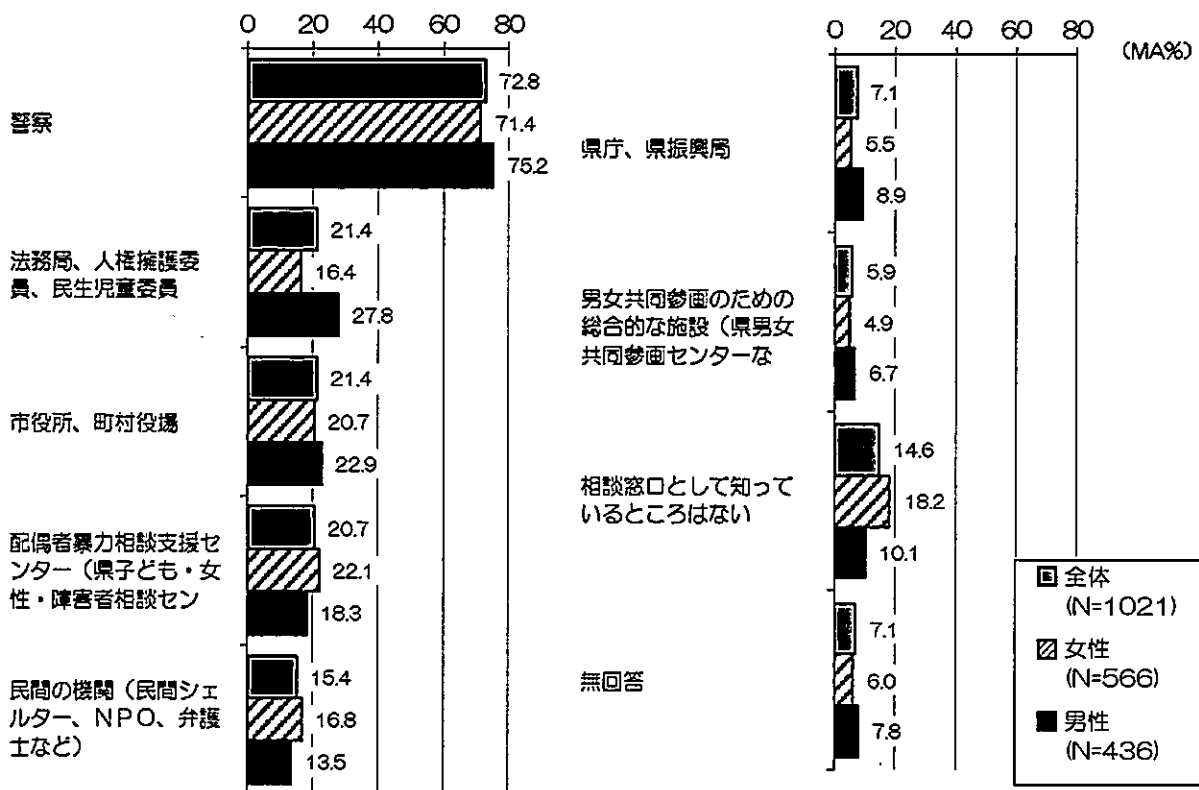
## 23-1 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの

問23 配偶者や恋人の間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関のうち、知っている所はどこですか。(あてはまるものすべてに○印)

### ポイント

- 「警察署」は7割の人に認知されている。
- 「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」では、男性の認知度が高く、女性との差が大きい。

図23-1-1 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの



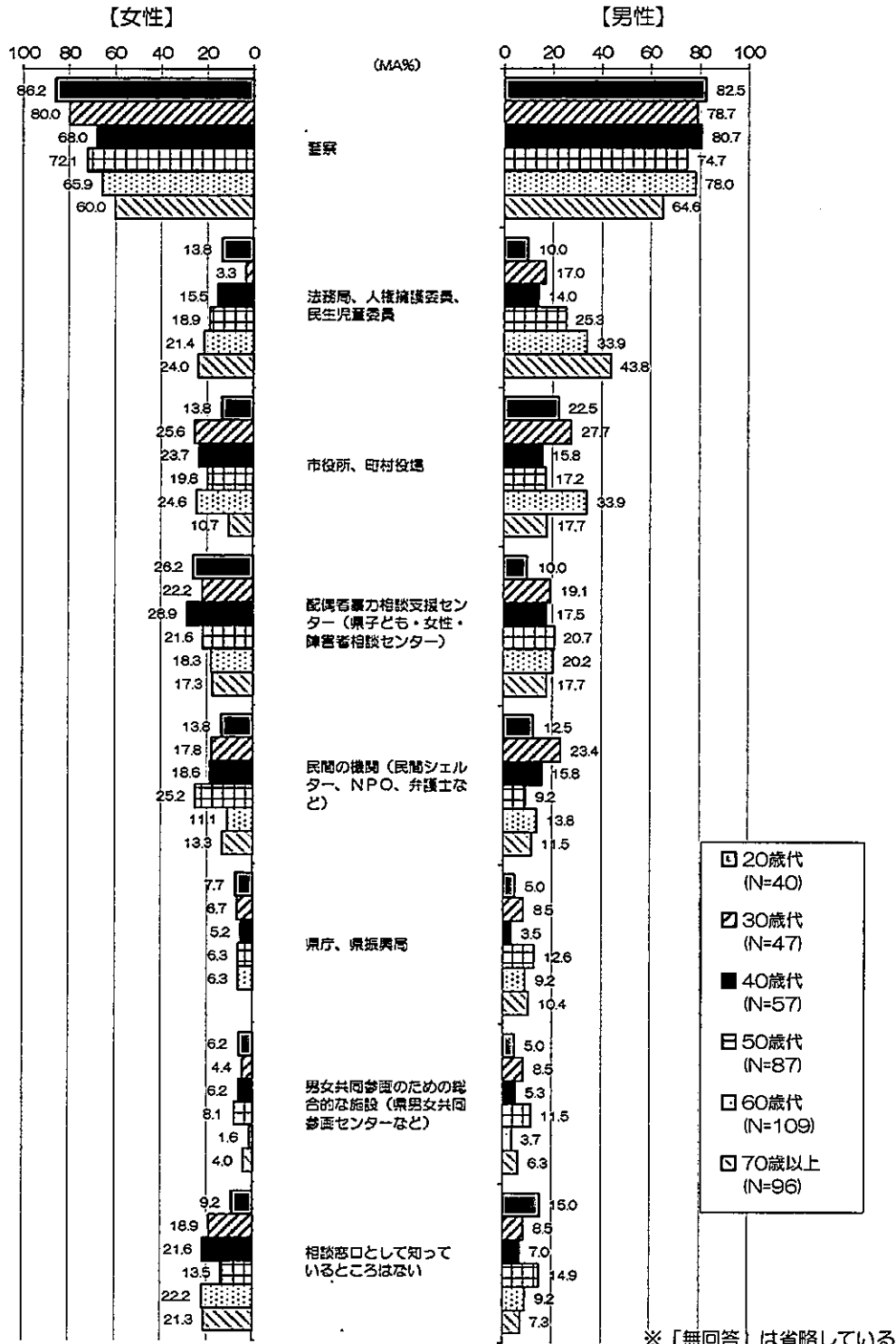
配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているものについて、全体では「警察」が72.8%と最も高く、次いで、「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」が21.4%、「市役所、町村役場」が21.4%となっている。

性別にみると、「警察」の認知度は、女性では71.4%、男性では75.2%となっている。「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」(女性16.4%、男性27.8%)では、男性の認知度が高く、女性より11.4ポイント高くなっている。これら以外の項目では、男女間に大きな差はみられず、「市役所、町村役場」(女性20.7%、男性22.9%)では、男性の方が2.2ポイント認知度は高く、「県庁、県振興局」でも、男性の方が3.4ポイント認知度は高くなっている。(図23-1-1)

図23-1-2 性年齢別  
配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの

ポイント

- 「配偶者暴力相談支援センター(県子ども・女性・障害者相談センター)」は女性では40歳代、男性では50歳代で認知度が高い。
- 「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」は男女ともに高年齢層の方が認知度は高い。



性年齢別にみると、「警察」は女性では、20～30歳代で7割以上、男性では70歳以上を除く年代で7割以上となっている。「配偶者暴力相談支援センター(県子ども・女性・障害者相談センター)」は女性の40歳代で28.9%と最も高くなっている。「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」では、女性は50歳以上の年代で2割以上、男性では70歳以上の年代で4割以上となっている。(図23-1-2)

## 24-1 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

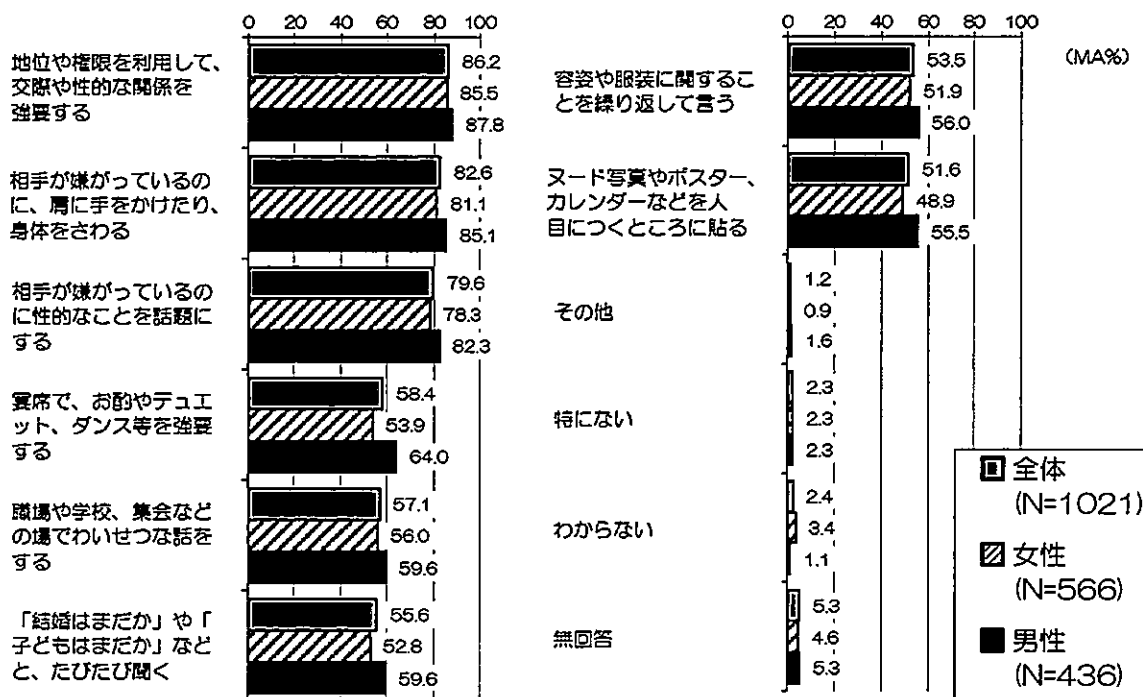
問24 次にあげるもののうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。  
(あてはまるものすべてに○印)

### ポイント

○「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」が、セクシュアル・ハラスメントであるとする割合が最も高く、次いで「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体をさわる」となっている。

○いずれの項目についても、セクシュアル・ハラスメントであると考える人の割合は、男性の方が高い。

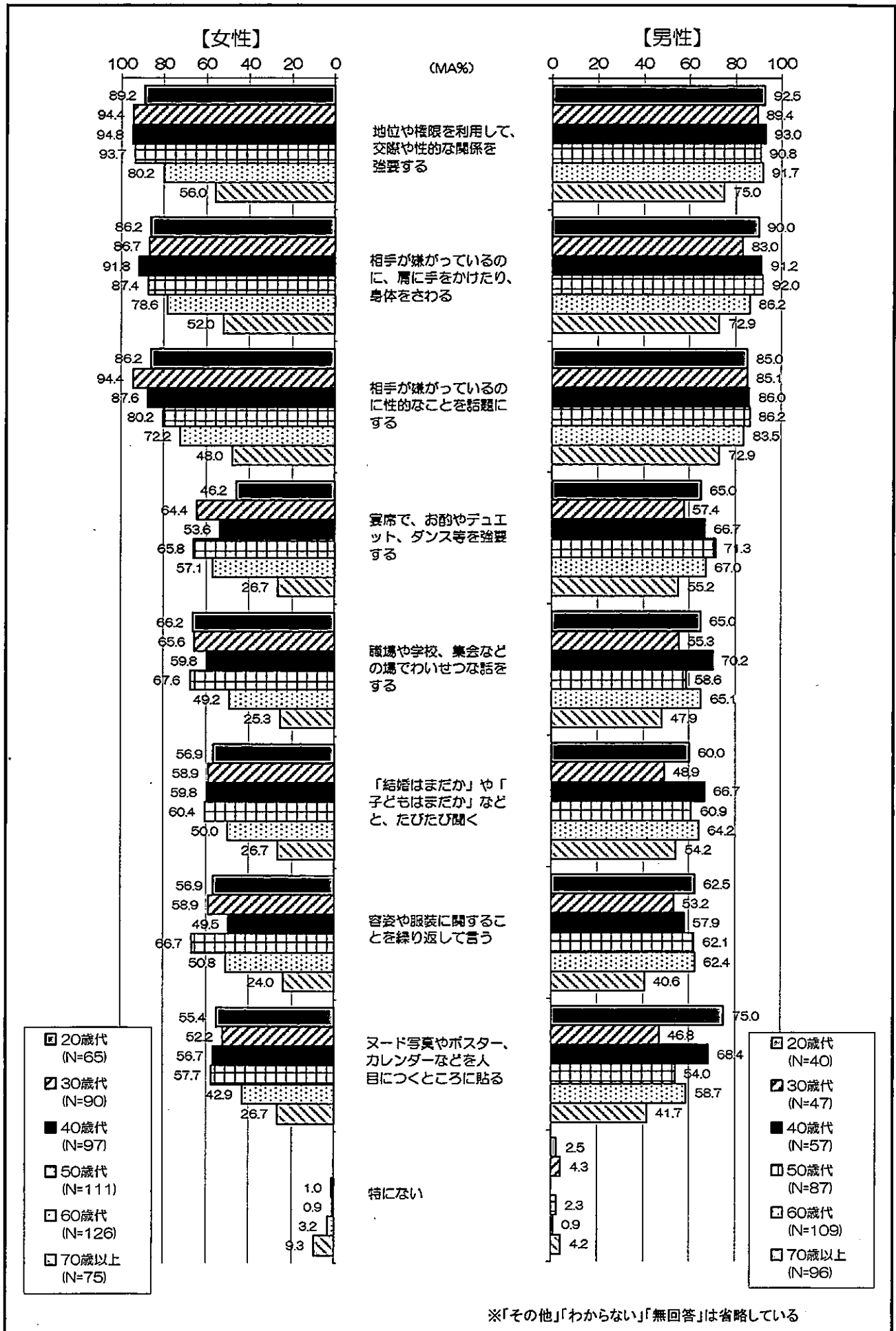
図24-1-1 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと



セクシュアル・ハラスメントだと思うことについて、全体では、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」(86.2%)、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体をさわる」(82.6%)、「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする」(79.6%)、「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(58.4%)が、5割以上となっている。

性別にみると、「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」では、女性が53.9%、男性が64.0%の人がセクシュアル・ハラスメントだと感じており、男性の方が10.1ポイント高く、差が大きくなっている。全ての項目において、女性より男性の方が上回っている。(図24-1-1)

図24-1-2 性年齢別 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと



### ポイント

○「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり身体をさわる」、「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする」は、高年齢層になるにつれて、割合が低くなっている。

○「容姿や服装に関することを繰り返して言う」、「結婚はまだか」や「子どもはまだか」などと、たびたび聞く」は、女性の30～40歳代でセクシュアル・ハラスメントであると考えられる割合が高い。

○「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」、「ヌード写真やポスター、カレンダーなどを人目につくところに貼る」は、女性の40～50歳代でセクハラであると考えられる割合が高い。

「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり身体をさわる」、「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする」では、高年齢層になるにつれて、割合が低くなっている。男性ではほとんどの項目において高年齢層になるにつれて、割合が低くなっている。

「容姿や服装に関することを繰り返して言う」、「結婚はまだか」や「子どもはまだか」などと、たびたび聞く」、「ヌード写真やポスター、カレンダーなどを人目につくところに貼る」は、女性の20～50歳代で高くなっており、約5割となっている。

「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」、は、男性の全ての年代で5割を超えている。(図24-1-2)



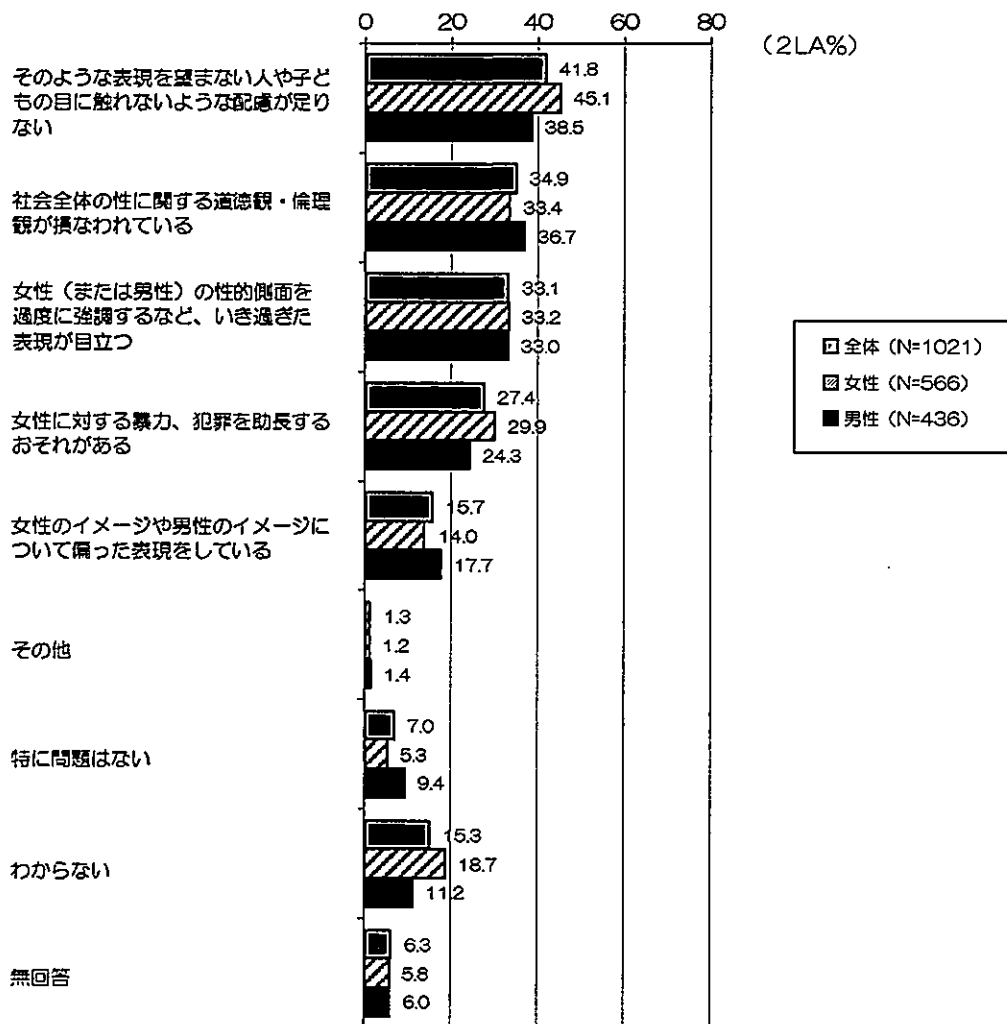
## 25-1 メディアにおける性や暴力表現についての考え

問25 メディア(新聞・雑誌・テレビ・インターネット等)における性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。(2つまでに○印)

### ポイント

- 男女ともに、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「女性(または男性)の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」という意見が3割以上となっている。
- 「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」では、女性より男性の方が割合は高くなっている。

図25-1-1 メディアにおける性や暴力表現についての考え



メディアにおける性や暴力表現についての考えについて、全体では「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が41.8%と最も高く、次いで、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が34.9%、「女性(または男性)の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」が33.1%となっている。それ以下の項目はいずれも3割以下にとどまっている。

性別にみると、「女性に対する暴力、犯罪を助長するおそれがある」で女性の方が男性よりも5.6ポイント高くなっている。(図25-1-1)

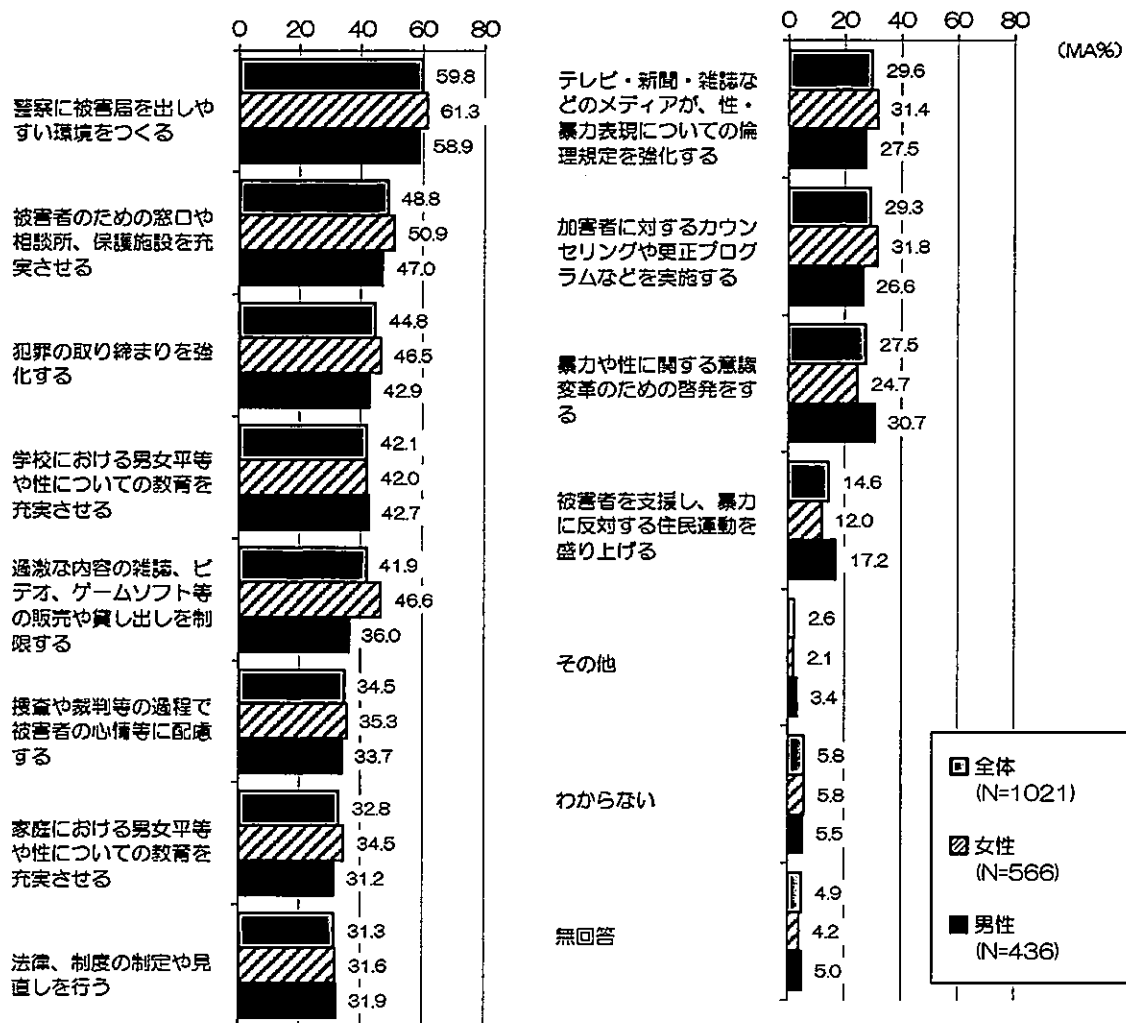
## 26-1 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

問26 性犯罪、DV(配偶者等からの暴力)、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

### ポイント

- 「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」という意見が、男女ともに5割以上と最も高い。
- 全ての項目で、男女間に大きな差はみられない。

図26-1-1 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと



性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なことについて、全体では、「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が59.8%で最も高く、次いで、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる」が48.8%、「犯罪の取り締まりを強化する」が44.8%となっている。

性別にみると、「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」が10.6ポイント女性の方が高くなっている以外、特に目立った男女差のある項目は見あたらない。ほとんどの項目で男性より女性のほうが高くなっているなか、「暴力や性に関する意識変革のための啓発をする」という意見は、6.0ポイント男性の方が高くなっている。(図26-1-1)

表26-1-2 性年齢別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくするために必要なこと

**ポイント**

- 「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」という意見は女性では20歳代で、男性は60歳代で最も高くなっている。
- 女性では、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる」が、60歳代で5割以上と高くなっている。
- 男性では、「犯罪の取り締まりを強化する」が、20歳代で5割と高くなっている。

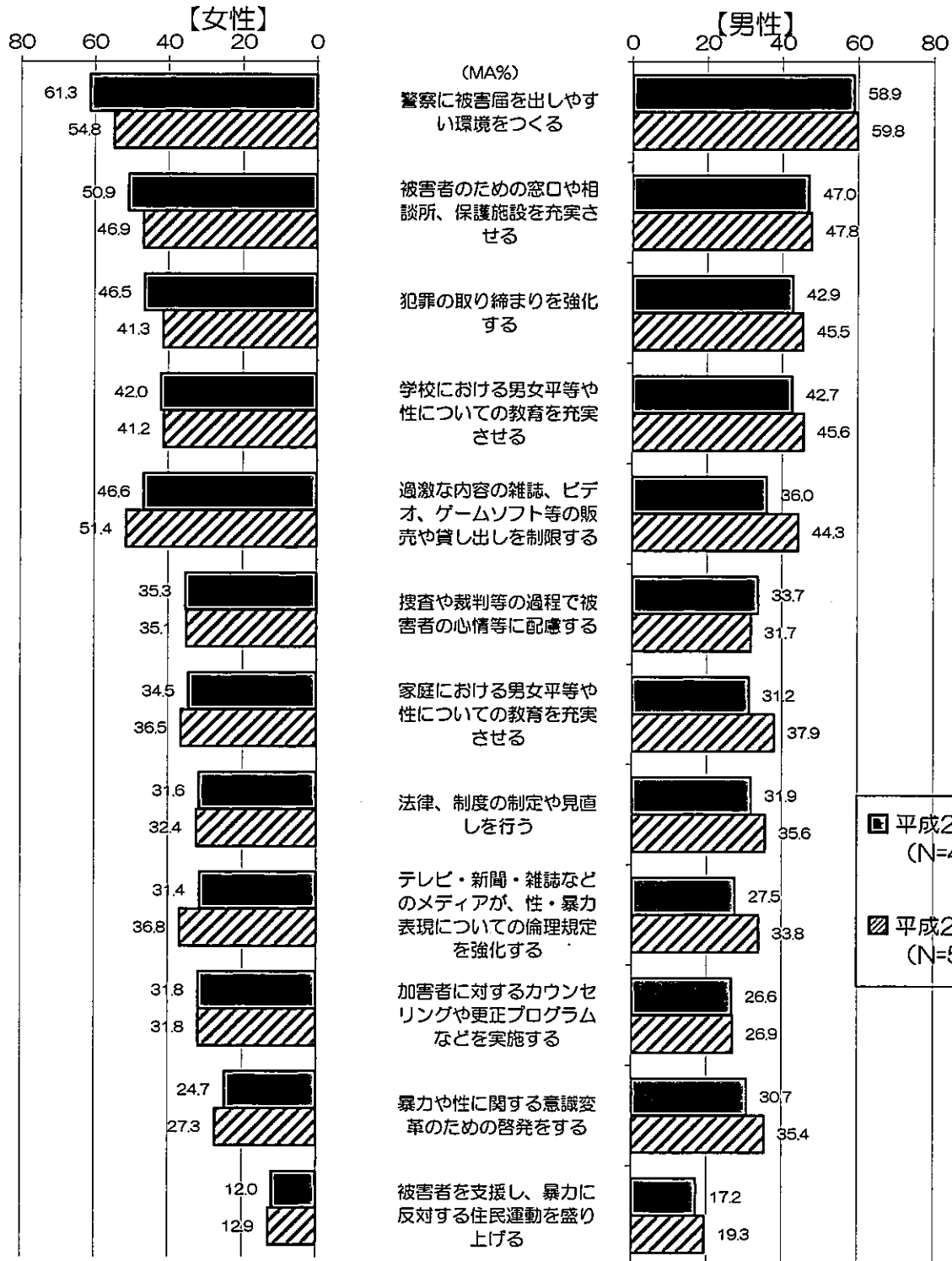
	女性	警察に被害届を出しやすい環境をつくる	被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる	犯罪の取り締まりを強化する	学校における男女平等や性についての教育を充実させる	不適切な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する	捜査や裁判等の過程で被害者の心情等に配慮する	家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	法律、制度の制定や見直しを行う	テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する	加害者に対するカウンセリングや更正プログラムなどを実施する	暴力や性に関する意識啓蒙のための啓発をする	被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	その他	わからない	無回答
<b>女性</b>																
20歳代	65	70.8	52.3	47.7	40.0	24.6	41.5	32.3	43.1	16.9	33.8	27.7	9.2	4.6	4.6	3.1
30歳代	90	68.9	46.7	53.3	40.0	40.0	33.3	36.7	41.1	33.3	43.3	25.6	7.8	5.6	2.2	0.0
40歳代	97	63.9	53.6	52.6	44.3	55.7	41.2	35.1	37.1	32.0	28.9	19.6	14.4	1.0	3.1	1.0
50歳代	111	60.4	51.4	47.7	44.1	48.6	40.5	41.4	33.3	39.6	32.4	29.7	14.4	0.0	4.5	0.9
60歳代	126	57.1	54.0	38.9	46.8	54.0	34.9	31.7	20.6	34.1	27.8	27.8	13.5	1.6	9.5	4.8
70歳以上	75	49.3	45.3	40.0	33.3	46.7	18.7	28.0	18.7	24.0	26.7	16.0	10.7	1.3	10.7	18.7
<b>男性</b>																
20歳代	40	62.5	40.0	55.0	27.5	12.5	30.0	25.0	50.0	12.5	20.0	22.5	20.0	10.0	7.5	0.0
30歳代	47	46.8	40.4	31.9	40.4	25.5	31.9	29.8	31.9	21.3	23.4	23.4	10.6	2.1	8.5	2.1
40歳代	57	57.9	47.4	42.1	38.6	31.6	36.8	29.8	35.1	29.8	33.3	26.3	21.1	1.8	5.3	5.3
50歳代	87	58.6	51.7	44.8	35.6	25.3	32.2	27.6	23.0	18.4	31.0	29.9	14.9	8.0	3.4	3.4
60歳代	109	66.1	55.0	46.8	46.8	48.6	40.4	27.5	35.8	32.1	22.9	35.8	18.3	0.9	5.5	4.6
70歳以上	96	56.3	39.6	37.5	54.2	49.0	28.1	42.7	26.0	38.5	27.1	35.4	17.7	1.0	5.2	10.4

性年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が最も高くなっている。「法律、制度の制定や見直しを行う」では、男女ともに20歳代で最も高く、女性は43.1%、男性は50.0%となっている。女性の20歳代、40歳代では「被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる」が最も高く、それぞれ65.8%、59.0%となっている。「犯罪の取り締まりを強化する」では、30歳代女性で53.3%、20歳代男性で55.0%と最も高くなっている。「テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する」では、50歳代女性が39.6%、50歳代男性が18.4%となっており、21.2ポイントもの差がみられる。(表26-1-2)

図26-1-3 前回調査比較 性犯罪や配偶者からの暴力をなくするために必要なこと

ポイント

- 「犯罪の取り締まりを強化する」において、男女ともに前回調査よりも必要であると回答した人の割合が減少している。
- 「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」において、男女ともに前回調査よりも必要であると回答した人の割合が増加している。



※「その他」「わからない」「無回答」は省略

前回調査と比較すると、男女ともに増加したものは、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」、「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」「テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する」となっている。(図26-1-3)

※ なお、結婚の有無別の分析を実施したところ、「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」、「被害者のための窓口や相談所、保護施設を充実させる」、「犯罪の取り締まりを強化する」などでは未婚者女性で割合が高くなっている。また、「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」、「テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する」などでは、結婚経験者の割合が高くなっている。(図26-1-4)

図26-1-4 結婚の有無別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

